

# ヤチウグイ

*Phoxinus phoxinus sachalinensis*

コイ科



ヤチウグイ

## 名前の由来

ヤチ（野地）とは泥炭湿原のこと。ウグイは「いぐい」・「うつぐい」・「海鯉」の転じたものとか、「浮く魚」あるいは「ウが食う魚」の意などの説がある。漢字名：野地石斑魚

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(葦原・樹林)  
ワシ・タカ

## 特定種

国レッドリスト (2007) …準絶滅危惧 (NT)

## 形態的特徴

全長12cm。体側中央には不鮮明な黒い条（不規則な斑点）が縦（口を上、尾を下にして）に走る。ウグイ属（ウグイ・エゾウグイなど）に比べて小さいうろこに覆われている。

ウグイ属（ウグイ・エゾウグイなど）に比べて小さいうろこ

## 類似種と見分け方

ウグイ。  
ウグイの体色が銀白色なのに対し、ヤチウグイは金色。ウグイの背ビレ後端と尻ビレ前端が離れているのに対し、ヤチウグイの背ビレ同所は、離れない



ヤチウグイ。背ビレ後端と尻ビレ前端が離れていない



類似種のウグイ。背ビレ後端と尻ビレ前端が離れている

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
遡上・産卵期						■						
孵化期						■						
幼魚期	■											
成魚期						■						
						産卵					寿命は不明	

## 一 生

産卵期は6～7月。3日（水温20℃）ないし4日（15℃）でふ化し、ふ化後7日で餌を採り始める。約3ヶ月で全長20mmに達してうろこが現れ始める。

稚魚期（ヒレの条数が成魚と同じになってから）以降にな

って遊泳・分散する。1年で成熟するものもいるが、大部分は満2年、8～10cmになって成熟する。寿命は不明。

## 生息環境・分布

湿地帯の沼や小さな川、川の上流にある沼など。水草が多くあるところを好む。

**分布：**サハリン、シベリア、朝鮮半島などに分布。

国内では、北海道にのみ生息し、道南を除く全道に分布。

十勝地方では、中流域に生息するが、河川には少ない。主に川沿いの河跡湖や、川辺にある湧水由来の沼に生息する。

## 食 性

雑食性。付着藻類や付着小動物、小型の水生昆虫などをそこに沿って泳ぎながら、つついて採るといふ。

## 繁殖生態

産卵期は6～7月。岸辺の水草の根元付近で産卵するらしい。卵は卵径1mm余り、粘着性で、水草に付着する。

体内卵のうち、成熟ないし成熟に近いものの数は、2,000～11,000個。



ヤチウグイ

## 他生物との関わり

フナやトミヨなどと共にすんでいるところもある。産卵場所や生息場所として水草が繁茂するところを好む。

## 興味深い話

■唐揚げにして食べるのがよいという。ただし美味とはほど遠いという人もいる。

■「ウグイ」とついているが、同じコイ科ウグイ亜科の間ではあっても、ウグイやエゾウグイなどは「ウグイ属」、ヤチウグイは「アブラハヤ属」に分類される。

■十勝地方のアイヌ語名は不明。名寄では「トチェッポ」

と呼ばれるという。

## 配慮事項

湿地環境を好み、岸近くで水草などが繁茂するところを生息場所や産卵場所とする。酸性の場所にも生息し、酸素欠乏にも強いという。

魚類

底生動物

爬虫類  
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

### 参考文献

「北海道の淡水魚」 稗田一俊、北海道新聞社 1984

「検索入門 川と湖の魚①」 川那部浩哉・水野信彦、保育社 1989

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」 川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989

「原色日本淡水魚類図鑑」 宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦、

保育社、1963（1976全改訂新版）

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」 知里真志保、平凡社 1976